



学校だより

Email y3konan1@edu.city.yokohama.jp

U R L <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kohnandai/>



2020年1月24日

横浜市立港南台第一小学校

2月号

Tel 832-0210

Fax 832-7771

ものごとの始めと終わりの挨拶

副校長 木島 毅之

2月の声を聞くとあっという間に「立春」となりますが、まだまだ寒い日が続きます。暦の上では春ですが、もう少し「立春」と言う言葉のもつほのかな暖かさを感じながら、春の訪れを待ちたいと思います。寒さと乾燥で横浜市内でもインフルエンザが流行してきたようです。本校でも、子どもたちの毎日の登校の様子や体調の変化など状況把握に努めております。帰宅時には手洗い・うがい等ご家庭での健康管理をよろしくお願ひします。

さて、朝はどの学校でも元気のよい「おはようございます」の挨拶が飛び交い、気持ちのよい一日のスタートを切っています。学校により取り組み方の違いはありますが、どの学校でも「自分からすすんであいさつをしましょう」等のめあてを設け、その実現のために努力している点では共通しています。本校でも挨拶運動など子どもたちが自主的に取り組んでいます。私も、廊下や昇降口で出会う子ども達と挨拶を交わし、たくさんの元気をもらっています。挨拶というのはほんの一瞬ですが、嬉しくもあり、すがすがしい気持ちになります。大きな声で挨拶してくれる子、遠くからでも挨拶してくれる子、きちんとおじぎをしながら挨拶する子、声は出ていないけれど目を合わせて挨拶する子などいろいろな挨拶があり、一人ひとりの個性が表れているのだと思います。

私たちの生活の中で、ものごとの始めと終わりには必ず挨拶はつきもので、円満な人間関係をもたらすためにも大切なものです。それは、エンジンの中で働く潤滑油のようなものです。もし、挨拶しても相手の応答がないと何となく不安になり、それまでの相手への思いや信頼感が揺らぎ、徐々に相手への不信感が募り、疎外感や孤立感が深まることさえあります。核家族化や少子化の時代で、子どもたちが少しのことに我慢したり、切磋琢磨したりする場面が減少してきていると言われていいます。子どもたちが将来、様々な集団に適応し、周りに良好な人間関係を築きながら、豊かで幸せな社会生活を営んでいくために、挨拶の習慣は不可欠です。すぐに挨拶ができなくても繰り返していくことで少しずつ身についていくと思います。保護者や地域の方々、友達からの挨拶は子どもたち一人ひとりに、元気や勇気を与え、優しい気持ちにもしてくれます。今後とも声かけをよろしくお願ひします。

私たち大人は、とにかく子どもたちに学んだことの結果を「すぐに」「早く」と求めがちです。学んだことを活かすことができるのには、何ヶ月も何年もかかることがあります。歳を重ねると一分一秒が惜しくなりますが、若いうちはまだまだ時間も、伸びしろもたくさんあります。急がず焦らず、家庭・地域・社会・学校で力を合わせて子どもたちを育みたいと思います。

「大きくても30cmほどのヤマメと、その倍もあるサクラマスが、もともとは同じ魚だということをご存じですか？ 川での生存競争に敗れたヤマメの一部が、餌を求めて海へと下り、餌が豊富な海を回遊するうちに大型化したのがサクラマスなのだそうです。そのときは負けたように思えても、自分で、自分に見切りをつけなければ、人生に「負け」なんてものは存在しません。人と競うのではなく、できることから少しずつ努力を重ね、昨日の自分より、ちょっとだけでも成長しようと心がける。そうすれば、いつの間にかサクラマスのようにグーンと大きくなっているはずですよ。」

これは医師・作家として有名な斎藤茂太氏の言葉です。